

令和 6 年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

（経済学部）

－ 解答上の注意事項 －

1. 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
2. 問題冊子のほかに解答用紙 3 枚及び下書き用紙 2 枚が配布してある。
3. 解答は横書きとする。
4. 全ての解答用紙を提出すること。
5. 問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること。

問題 以下の文章を読んで、文末の【設問1】から【設問3】に答えなさい。

メリトクラシー、すなわち業績主義とは、近代社会の主要原理のひとつである。近代よりも前の社会では、身分制度により人間は出生とともに一生の道筋がほぼ決まっていた。だが、近代社会においては、そうした属性主義の社会体制は公正や効率の観点から望ましくないものと見なされるようになった。

その代わりに近代社会において導入されたのがメリトクラシーであり、これは個々人が過去に何をなしてきたか、これから何をなすうかに応じて、社会的な地位を配分する仕組みである。そして、メリトクラシーにおいて重要な役割を果たしてきたのが学校教育である。

メリトクラシーが成り立つためには、社会の構成員が能力を伸ばす機会とそれを証明する手段を、すくなくとも形式的には均等に与えられていなければならない。それを実現する場としての学校教育への社会成員の包摂^{ほうせつ}が、近代社会においては進んできた。

学校教育では、同じ教室で、同じ教育内容を与えられ、同じ試験によって教育内容の習得度が計測される。むろん、その習得度には個々人の出身家庭がもつ諸資源の量によって差が生じるが、メリトクラシーに基づく社会と学校は、そうした属性主義的な差異を皆無にする責任までは負おうとしていない。

つまり、メリトクラシーは、能力の開発と証明に関する手続き的な公正さを準備することを、その最大の責務としているのである。そして、個々人は、それぞれが示した達成の度合いに応じて、学校教育内部で分岐した各ルートや、学校教育外部の社会、とくに職業世界内の各地位に配分されてゆく。

このようなメリトクラシーにおいて計測され評価される能力は、認知的で標準的な記号操作能力（文字や数字、法則などを正確に適用し、操る能力）を主としていた。なぜなら、行政機関や企業など、近代社会を構成する主要な組織においては、整備された指揮命令系統やルール、そしてマニュアルなどに沿って行為する官僚制の原理が支配的であり、そのような組織においては、この種の能力がもっとも有効であったからである。

しかし、ポスト近代社会においては、こうしたメリトクラシーもいまなお生きているものの、そこにさらにかぶさるようなかたちで、ハイパー・メリトクラシーが現出しているというのが筆者の見方である。

ハイパー・メリトクラシーとは、非認知的で非標準的な、感情操作能力とでも呼ぶべきものの（いわゆる「人間力」）が、個人の評価や地位配分の基準として重要化した社会状態を意味している。

ハイパー＝「超」という言葉を冠している理由は、従来のメリトクラシーよりもむき出しで苛烈なメリトクラシーだと考えるからである。なぜなら、ハイパー・メリトクラシーは、認知的な能力（頭のよさ）よりも、意欲や対人関係能力、創造性など、人格や感情の深部、人間の全体におよぶ能力を、評価の俎上^{そじょう}に載せるからである。

また、ハイパー・メリトクラシーは、手続き的な公正さよりも、その場その場でのアドリ

ブ的な結果の成否を重視するという点で、不断のパフォーマンスによる永続的な証明を要求するからである。

ハイパー・メリトクラシーは、教育機関や企業などの組織が新たな構成員を選ぶ際の選抜、すなわち採用試験や入学試験においても、また、それらの組織の内部における個人の位置づけや処遇が決定される際にも、いっそう広範に観察されるようになっている。

たとえば、日本経済団体連合会が実施した「2007 年度・新卒者採用に関するアンケート調査」の結果によれば、企業が採用選考時に重視する要素は、過去 5 年間連続して「コミュニケーション能力」が第 1 位となっている。大学の AO 入試などでも、面接の際に意欲や問題意識をいかに示せるかが合否を左右する。

このように、旧来のメリトクラシーにくわえてハイパー・メリトクラシーが台頭している背景には、産業構造の変化や文化・価値の多元化という事態がある。サービス産業や高付加価値多品種少量生産の製造業が中核を占めるようになった産業構造のもとでは、高度な新規需要開拓能力と、接客をはじめとするルーティン的な対人能力が重要化する。

ハイパー・メリトクラシーは、若者に対して、次のような厳しい負荷を突きつける。

(1) 人格や感情の全体におよぶ能力の発揮を不断に求めるハイパー・メリトクラシーは、若者にとって超えるべきハードルや満たすべき要請が、高度化することを意味している。若者は、つねに前向きで、やる気と根性があり、周囲に対する敏感な配慮ができて、独自の発想をもっていなければならない。

教育機関や職場、まわりの人々からのそうした顕在的・潜在的な要求は、若者にとってきわめて「しんどい」ものとなる。とくに、グローバルな経済競争の激化や技術革新により、いかなる就労形態であっても求められる労働の質と量の水準が上昇していることともあいまって、仕事の世界におけるハイパー・メリトクラシーの要請は厳しいものとなっている。

(2) ハイパー・メリトクラシーが求める柔軟な諸能力は、個々人の存在全体に関わるものであるため、それらは一朝一夕に獲得しにくい。それらは、幼少期からの家庭内・家庭外での生育経験を通じ、長い時間をかけて形成される。

その際には、個々人が出身家庭の内外にどれほど潤沢な経済的・文化的・社会関係的な諸資源を有していたかが決め手になる。そのため、たとえば青年期に達した時点でその格差があきらかになったとしても、その差を挽回することはむずかしい。そうした諸能力の格差は、まるで資質や性格のように、個々人に生得的・内在的に帰属するものと受けとめられる。

そして、こうした格差は昂進的性質をもつ。すこし内向的であることによって集団内で疎外され、いっそう対人関係の苦手意識を強める、といったように。しかも、このような格差を早期からできるだけ縮小するような施策や制度、実践は、現在の日本ではほとんどこうじられていない。それゆえに、ハイパー・メリトクラシー的な能力の格差や不足は、放置された状態にある。

(3) すでに述べたように、ハイパー・メリトクラシーにおいては、明確で定式化された評価の基準や尺度、言い換えれば「正解」は存在しない。対人能力ひとつにしても、どのよ

うな振る舞い方が適切とされるかは、その場その場に支配的な対人関係のモードや、文脈など「場の空気」によって異なる。

しかし、どのような「場の空気」が支配的であるか、どのような行為が「空気が読めている」ことになるかは、その場に居合わせている個人のタイプや、そのなかで相対的に大きな権力をもつ者によって恣意的に決定される。

それゆえ、ハイパー・メリトクラシー的な評価や選抜には、つねに不当な差別や不公正が入り込む。にもかかわらず、それらは隠蔽^{いんぺい}される。

そうした状況は、評価され選抜される側の若者からすれば、自分の軌跡を主体的に選択していくことが不可能な状態であることを意味する。生殺与奪^{せいしつよだつ}の権利が、評価する側・選抜する側の恣意的な判断にゆだねられているからである。

(4) 何ら将来の道筋が示されないままに、自分の軌跡をみずから切り開くことが、「主体性」や「自己決定能力」などの名のもとに、ハイパー・メリトクラシー的能力の一環として期待される。それに失敗した場合には、そうした能力や意欲、そして努力を欠いていたとして、自己責任に帰される。

実際に、若者のなかには、学習や仕事に挫折した場合、自分自身で責任を抱え込み、環境ではなく自分を罰するようなかたちで退出をはかる例があとをたたない。

そして、正規労働から非正規労働へ、非正規労働から無業へ、無業からひきこもりへ、さらにはこの世から退出して自殺を選ぶというように、ハイパー・メリトクラシー下で「使えない」と自他によって定義された人間は、社会の中心から周縁へとみずからを排除していく。

これは、社会のあり方に対する批判や抵抗という摩擦を生じさせないという、既存の社会体制の維持にとってきわめて効率的な状態が、残酷にも成立していることを意味する。あらゆる失敗や問題を個人のハイパー・メリトクラシー的能力の不足に帰してしまうことは、社会の構造的な矛盾やひずみへの問い直し、そして変革を阻害する結果をもたらすのである。

(5) 逆に、ハイパー・メリトクラシーの要請に応じて社会の中核部分に留まろうとする場合、個人は人格や感情のすべてを他者にさらし、適応に没入することになる場合が多くなる。たとえば「仕事にやりがいをもって打ち込むこと」が美德とされるために、見合った処遇をとまわらないままに、際限なく「働きすぎ」る状態が生まれる。

このような状態に疲弊しきって、前述のように自己退出を選ぶ者も多い。その意味で、ハイパー・メリトクラシー社会とは、個人のエネルギーを吸い取れるだけ吸い取って「使い捨て」る社会でもあり、中心と周縁は「地続き」なのである。

出典：本田由紀『軋む社会』河出文庫、2011年刊行。ただし、問題作成のため一部を改変した。

【設問1】 メリトクラシーにおいて計測され評価される能力が近代社会で有効であった理由を本文の内容をふまえて 100 字以内で述べてください。

【設問2】 ハイパー・メリトクラシーの負の側面とは何か。本文の内容をふまえて 200 字から 250 字以内で説明してください。

【設問3】 ハイパー・メリトクラシーがもつ負の側面を改善するための社会的な対応策として、どのようなものが考えられますか。500 字以内で述べてください。